

教育目標

「生きていく力」の育成

- ◎人権を大切にし「五つの心」「JAS」を実践する力
- ◎意見を交流し、仲間と共に学びを深める力
- ◎健康を保持、増進する力

年度末の最終評価

自己評価

教育目標の達成状況、次年度に向けた見直し

- ・「五つの心」「JAS」を合言葉に豊かな心を育み、テスト前週間や文化祭以降の3年生の日常生活で「学習をはやらす」を合言葉に学力向上に取り組んできた。その結果、生徒の学習に対する意識が高まり、特に定期テストが近づくと、学級内で休憩時間でも学習する姿が見られ、互いに教え合ったりする様子も窺えた。また、3年生の後期では、進路実現に向けて、仲間と学習について話をしている場面が多く見られるようになった。
- ・文化祭、体育祭、伝統文化教育で自己有用感を育み、達成感を高めることができた。生徒が生徒の意識を変え、より良い姿に変えていく、そのような取組ができた。次年度は、道徳授業を充実させ、全校道徳の機会なども設けたい。また、道徳教育や人権教育の工夫により、他者を思いやる心や平和を願う人権意識を高めていきたい。
- ・新型コロナの影響で、GIGAスクール構想が加速する中、ICTを取り入れた学習環境に素早く順応するため、次年度は、ICTを活用した新しい学習スタイルにおいて、生徒の学習意欲を喚起させる授業、「生徒をその気にさせる」授業を展開していきたい。
- ・支援の必要な生徒に対して、学年を超えて多くの教職員で関わる体制ができてきた。教職員からも、「学年の枠を超えて、学校全体で生徒を見ていくのが、本校の特徴であり、強みである」という発言が、研修会や学年会で出ており、教職員の中で浸透してきた。生徒の心の背景を理解した生徒指導も定着しつつあり、今後は、授業力の向上においても、積極的な意見交換をし、学校全体で授業力向上に努めていきたい。

学校関係者評価

学校関係者による意見・支援策

- ・新型コロナウイルス感染拡大防止のため、対面形式での学校関係者評価会議はできなかったが、書面開催の連絡をする中や、地域で顔を合わせる場面で、本校の学習の取り組みや生徒の学習成果を説明し、授業や生徒の学校での様子を伝えると、「五つの心」「JAS」といった取り組みは、学力の向上だけではなく、一人一人の心を豊かに育む取組であり、今後の生徒の未来を考えると、欠かせない取り組みであるので、継続してほしいという意見を頂いた。
- ・また、地域の特色を踏まえた上で、小規模校の特徴をうまく生かした取り組みができています。校門周りから中庭も含め、花と緑に囲まれた環境で、校内美化ができており、子どもたちと教職員、地域の園芸ボランティアの方が頑張っていることが分かるというご意見を頂いた。
- ・今後も、一人一人の生徒を大切にしたい教育実践を継続してほしい。

学校関係者評価の評価日・評価者

	評価日	評価者
中間評価	令和2年10月14日	学校運営協議会 書面実施
最終評価	令和3年 2月24日	学校運営協議会 書面実施

(1)「確かな学力」の育成に向けて『学力向上プラン』

重点目標

- ★ 小規模校・少人数の利点を最大限に生かす
- ★ 地域の伝統的・文化的な環境を活用する
- ★ LD等支援の必要な生徒の学力向上

具体的な取組

- ・学力に課題のある生徒やLD等支援の必要な生徒に対し、総合育成支援委員会およびケース会議を持ち、具体的な支援の方法について検討し、組織的な取り組みを進め、基礎・基本の学力の定着を図る。
- ・ジョイントプログラムおよび学習確認プログラムを教科の学習サイクルに位置づけ、家庭学習の課題と繋げることにより、家庭学習の定着を図る。
- ・言語活動を活用した教科授業を実践し、生徒自らが、主体的・対話的に学習を進める力を育てる。
- ・教師間のグループ研修を実施し、従来の学習アンケートに基づいた授業の視点をもとに、各教科の“深い学び”につながる授業の改善に活用し、生徒自らが深い学びを進められる資質を高める。
- ・伝統文化教育を学校行事や総合的な学習の時間、各教科と連携させ、系統的に実施することで、より深く、地域の伝統文化の特徴を理解させる。
- ・3年生2クラスを3分割し少人数学習を行い、個の課題に応じた学習支援を行い、学力の伸長を図る。(社会・数学・英語)
- ・テスト前学習会を全学年実施し、補足的な学習を行い、基礎・基本の学力の定着を図る。

(取組結果を検証する) 各種指標

- ・全国学力学習状況調査(本年度なし)
- ・学習確認プログラム
- ・各教科及び家庭学習の提出状況のチェック
- ・生活アンケート
- ・学校評価保護者アンケート
- ・学校評価生徒アンケート
- ・進路希望調査
- ・教育相談

中間評価

各種指標結果

- ・各教科の学習活動を、学習確認プログラムと関連付けを重視しながら授業を進めており、予習シートや復習シートを活用した家庭学習の定着において一定の成果が見られる。しかし、授業での内容を自分なりに振り返り学習するといった主体的な学びといった点では不十分な点も多い。今後さらに深い学びへと発展させるための授業改善及び家庭学習づくりが必要である。

- ・提出状況チェックシートの結果、未提出者が若干名いることも今後の課題である。
- ・3年生の6月の学習確認プログラムの結果では、国語、数学、理科、英語に関しては、平均指数を上回る数値であった。社会に関しては、平均指数をやや下回る数値であった。
2年生の9月の学習確認プログラムの結果では、数学、理科、英語に関して、平均指数を大きく上回る高い数値であった。国語、社会に関しても、平均指数を上回る高い数値であった。
- ・学校評価生徒アンケート（各項目の実現度：7ポイントが最大値、3.5ポイントが中間、1ポイントが最小値）において、「先生が授業を工夫すること」の項目は、1年生5.7ポイント・実現度77%、2年生5.5ポイント・実現度79%、3年生5.6ポイント・実現度80%と高い数値であった。
- ・学校評価保護者アンケート（各項目の実現度：7ポイントが最大値、3.5ポイントが中間、1ポイントが最小値）において、「学力向上に向けた授業の工夫をしていること」の項目は、1年生4.8ポイント・実現度69%、2年生5.2ポイント・実現度74%、3年生5.8ポイント・実現度83%と、1.2年生保護者評価は生徒評価と比較し、やや低い数値であった。
- ・3年生の進路希望調査の9月結果では、公立全日制普通科47.6%、専門学科16.7%、私立23.8%と昨年と比較すると、私立高校への進学希望が少し減った。

自己評価

分析（成果と課題）

- ・学習確認プログラムの結果では、正答率の高い数値であるが、3年生、2年生ともに、正答率の高い層と、苦手意識から解答を諦めてしまっている正答率の低い層がいる。正答率が高い生徒は、学習の習慣が定着し、より深く学んでいく意識が高く、学習を重ねるにつれて力をつけてきている。正答率の低い生徒は、基礎的な学習段階でのつまずきがあり、学習に対しての苦手意識を払拭できずにいる。家庭学習を見ても、学習が苦手な生徒は、家庭学習の時間が不十分な生徒が多い。また、各学年にいる学習に支援を要する生徒への対応も、今後の課題である。
- ・学力向上に向けた授業の工夫では、生徒からの評価は高い数値であり、密を避ける工夫をしながら、意見交換のできるペアワーク、発表の機会を増やすといった授業改善の成果が見られる。保護者の評価が、授業を受けている生徒より、やや低い数値なので、新型コロナの感染状況を踏まえ、安全を確認したうえで、公開授業などの機会を設け、保護者の方に授業改善の取り組みを見て頂くことも必要である。

分析を踏まえた取組の改善

- ・各教科による授業と繋がる家庭学習課題の設定を行う。
- ・学習が苦手な生徒に対して、「自分で取り組み、自分でやり遂げる」といった達成感のある課題や家庭学習を設定する。
- ・各教科において、仲間と意見を交流するグループ活動や学び合い活動の充実と定着を図る。
- ・総合育成支援委員会を通し、支援を要する生徒の情報共有を徹底する。
- ・新型コロナの感染状況を踏まえたうえで、安全に留意し、オープンスクールの機会を設け、生徒同士の意見交流や積極的な発表の場を取り入れた授業を保護者の方に見ていただく。

（最終評価に向けた）取組の改善を検証する各種指標

- ・進路希望調査
- ・教育相談
- ・進路相談会
- ・提出状況チェックシート
- ・学習確認プログラム
- ・学校評価保護者アンケート

	<ul style="list-style-type: none"> ・学校評価生徒アンケート
学校関係者評価	<p>学校関係者による意見・支援策</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学力向上に向けて、新型コロナウイルス感染防止対策が必要な中でも、生徒が意見交流をしたり、発表したりするなど、授業改善や取組の工夫が成果として現れてきている。学習が苦手な生徒に対して、授業と連動した家庭学習の工夫が必要である。 ・3年生は、進路も関係してくるので、家庭と連携し、提出物の指導を徹底していく必要がある。 ・烏丸中学校の特徴でもある小規模校の強みを出すこと、3年生の3分割による少人数の学習指導は生徒の学力向上に繋がっている。

最終評価

	<p>中間評価時に設定した各種指標結果</p> <ul style="list-style-type: none"> ・進路希望調査 ・教育相談 ・進路相談会 ・提出状況チェックシート ・学習確認プログラム ・学校評価保護者アンケート ・学校評価生徒アンケート
自己評価	<p>分析（成果と課題）、重点目標の達成状況、次年度の課題</p> <ul style="list-style-type: none"> ・進路希望調査などから、1学期や2学期の時点では、具体的な進路展望を持てなかった生徒も、進路学習や教育相談、進路相談会を経て、自分の将来を考え、進路希望に繋げることができた。 ・提出状況チェックシートでの提出指導結果、進路に向けて、学年末に向けて、若干の未提出者においても最終的に提出できるようになった。次年度は期限を守って提出することが指導の課題である。 ・3年生の学習確認プログラム1stの結果は、国語、数学、理科、英語に関しては、平均指数を上回る結果であった。社会は、やや平均指数を下回っているが、2年生時の学習確認プログラムPre-3社会の結果と比較すると、正答率が20%未満の層が、3年生時で30%を超える正答率に上がった。授業でパワーポイントを活用し、視覚に働きかけて授業を進める、授業改善の成果が出てきたと考えられる。 ・2年生の学習確認プログラムPre-1の結果は、全教科に関して、平均指数を大きく上回っている。正答率20%未満の層が非常に少なく、正答率が60%から90%の層が多い。しかし、正答率50%未満の層も見られるので、授業と繋がりのある家庭学習課題を作成し、家庭学習の支援を充実させる必要がある。 ・1年生のジョイントプログラムの結果は、国語の各観点で、「話す・聞く能力」の正答率、「書く能力」の正答率が非常に高い数値であったが、「読む能力」の正答率、「言語についての知識・理解・技能」の正答率がやや低く、問題内容「説明的文書の読解」に取り組む必要がある。数学の各観点で、「数学的な見方や考え方」の正答率がやや低く、問題内容「割合、比」の見直しが必要である。 ・学習確認プログラムの結果では、正答率が高い生徒は、学習の習慣が定着し、より深く学んでいく意識が高く、学習を重ねるにつれて力をつけてきている。正答率の低い生徒は、基礎的な学習段階でのつまずきがあり、学習に対しての苦手意識を払拭できずにいる。家庭学習を見ても、学習が苦手な生徒は、家庭学習の時間が不十分な生徒が多い。

- ・どの学年も一定の学力の定着が見られるため、「何をどのように学び、どのような力がついたか」、「学んだことをどのように使うか」という、知識や技能の習得と活用の仕方を考える授業設計が必要である。また、引き続き、学習が苦手な生徒に対して個別にアプローチする授業を続けていきたい。
- ・学校評価生徒アンケート（各項目の実現度：7ポイントが最大値，3.5ポイントが中間，1ポイントが最小値）において、「先生が授業を工夫すること」の項目は，1年生後期 5.9ポイント・実現度 84%，2年生後期 5.3ポイント・実現度 76%，3年生後期 5.3ポイント・実現度 76%，と比較的高い数値であった。
- ・学校評価保護者アンケート（各項目の実現度：7ポイントが最大値，3.5ポイントが中間，1ポイントが最小値）において、「学力向上に向けた授業の工夫をしていること」の項目は，1年生 4.8ポイント・実現度 69%，2年生 5.1ポイント・実現度 73%，3年生 5.8ポイント・実現度 83%と，1.2年生保護者は，生徒評価と比較し，やや低い数値であった。
- ・学習の苦手な生徒に授業内で個別にアプローチをすることで，基礎基本な学力の定着について成果が表れてきている。また，授業では，新型コロナ対策を考えながら，可能な限り，生徒同士の対話を重視する授業展開としてきた。他者の意見を聞いて，自分の意見を述べる授業展開が，本校の授業の特徴として浸透してきているので，次年度も引き続き，感染症対策を踏まえた上で，対話型の授業を展開していきたい。

分析を踏まえた取組の改善

- ・次年度は，ICTを活用した授業及び家庭学習に取り組むようにする。
- ・各教科による授業と繋がる家庭学習課題の設定を行い，保護者にも家庭学習の意図を理解していただけるようにする。
- ・学習が苦手な生徒に対して，「自分で取り組み，自分でやり遂げる」といった達成感のある学習課題や家庭学習を設定する。
- ・各教科において，仲間と意見を交流する学び合い活動の充実と定着を図る。
- ・総合育成支援委員会を通し，支援を要する生徒の情報共有を引き続き徹底する。
- ・今年度は実施できなかったが，来年度の休日参観，オープンスクールの機会に，生徒同士の意見交流や積極的な発表の場を取り入れた授業を保護者の方に見ていただき，懇談会などで学習の成果を説明していく。

学校関係者評価

学校関係者による意見・支援策

- ・新型コロナウイルス感染拡大防止のため，対面形式での学校関係者評価会議はできなかったが，書面開催の連絡をする中や，地域で顔を合わせる場面で，本校の学習の取り組みや生徒の学習成果を説明し，授業や生徒の学校での様子を伝えると，引き続き，小規模校の良さを活かして，一人一人を大切に手厚い学習を期待するというご意見を頂いている。

(2)「豊かな心」の育成に向けて

重点目標

人を思いやる心を培い、自分自身を大切にできるように、規範意識を高めはじめある生活を送る。

具体的な取組

- ・ 学校生活目標の J(時間)・A(挨拶)・S(掃除)を中心におき、生活目標として意識させる。
- ・ 五つの心(素直・感謝・反省・互譲・奉仕)が心の目標として生徒たちにも、保護者や地域にも浸透してきているため、引き続き、烏丸中学校の伝統として誇りを持てるように意識させる。
- ・ 生徒会執行部による全校集会などでの運営や司会を行わせることで、自己有用感を高める。
- ・ 生徒会活動や教科授業などを通じて、「自分の考えを発表する」ことや、「自分以外の人の意見をしっかりと聞く」ことなど、仲間と意見を交換し、人との繋がりを通して自他ともに大切にする心を育てる。
- ・ 地域の文化や環境を肯定的にとらえ、伝統文化を重んじ、地域を愛する心を育てる。
- ・ 人権教育や道徳教育を通じて、豊かな感性と情操を育む。
- ・ 行事などで成功体験を実感できる取り組みで、クラスや学年、学校の絆を高める。
- ・ 携帯スマホ教室や非行防止教室、薬物乱用防止教室などで、規範意識を高める力を育てる。

(取組結果を検証する) 各種指標

- ・ 学校評価保護者アンケート
- ・ 学校評価生徒アンケート
- ・ 生活アンケート
- ・ 道徳教育、道徳の時間のアンケート及び感想
- ・ 教育相談

中間評価

各種指標結果

- ・ 学校評価生徒アンケート(各項目の実現度:7ポイントが最大値,3.5ポイントが中間,1ポイントが最小値)において、「自分の事を大切な人間だと思ふこと」の結果が,1年生5ポイント・実現度71%,2年生4.5ポイント・実現度64%,3年生5.4ポイント・実現度77%と,3年生が8割近い生徒が実感しているのに対して,2年生が6割台と低い割合であった。
- ・ 学校評価生徒アンケートにおいて,「自分に自信をもつこと」の項目は,1年生4.9ポイント・実現度70%,2年生が4ポイント・実現度57%,3年生が4.6ポイントと66%と,2年生が5割台の低い数値であった。
- ・ 学校評価保護者アンケート(各項目の実現度:7ポイントが最大値,3.5ポイントが中間,1ポイントが最小値)において,「目指す子ども像『自信が持てる』について」の項目は,1年生4.9ポイント・実現度70%,2年生4.8ポイント・実現度69%,3年生5.5ポイント・実現度79%と生徒評価と比較し,保護者評価の方が高い数値であった。
- ・ 学校評価生徒アンケートにおいて,「地域の伝統文化を積極的に活用すること」の項目は,1年生3.8ポイント・実現度54%,2年生4.9ポイント・実現度70%,3年生5.4ポイント・実現度77%と,伝統文化の取り組みを重ねて,学年が上がるに比例し実現度が上昇している。
- ・ 学校評価保護者アンケートにおいて,「地域の伝統的・文化的な環境を活用すること」の項目は,1年生4.5ポイント・実現度64%,2年生5.3ポイント・実現度76%,3年生5.6ポイント・実現度80%と,伝統文化の取り組みを重ねて,学年が上がるに比例し実現度が上昇している。

・心の目標である五つの心（素直・感謝・反省・互譲・奉仕）についての作文で、多くの生徒が、学校、家庭、地域での人との繋がりを、温かく感性豊かな言葉で書いていた。

自己評価

分析（成果と課題）

- ・学校評価生徒アンケートにおいて、「自分の事を大切な人間だと思うこと」の結果が、3年生が8割近い生徒が実感しているのに対して、2年生が6割台と低い割合であった。
自己肯定感は、自らの存在意義を肯定できる感情であり、自己肯定感の高い生徒は、他人の存在意義も認めることができる。今後さらに、自己肯定感を高められるよう、教育活動に取り組むことが課題である。
- ・学校評価生徒アンケートにおいて、「自分に自信をもつこと」の項目が、2年生が5割台と低い数値である。日本はこの項目が低い傾向にあることが指摘されているが、今後、引き続き実現度が増すような教育活動に取り組むことが課題である。
- ・学校評価生徒アンケートにおいて、「地域の伝統文化を積極的に活用すること」の結果として、学年が進むにつれて、地域の伝統文化に触れ、地域に愛着を感じていることが窺える。
本校の特徴である伝統文化と地域との繋がりを更に生徒の意識に深めていけるよう取り組みを続けていく。
- ・心の目標として「五つの心（素直な心、感謝の心、反省の心、互譲の心、奉仕の心）」、生活目標として「JAS（時間、あいさつ、掃除）」を合い言葉にして取り組んできた。生徒、保護者に浸透しており、烏丸中学校の教育として定着していることは成果である。

分析を踏まえた取組の改善

- ・自主性や積極性を育てるための取組として、生徒会を中心とした「あいさつ運動」の活性化や生徒会行事の企画・運営の推進。
- ・文化祭や体育祭等の取組を通して、「人との繋がりによる心の温かさ・豊かさ」を実感し、その経験が、他の教育活動でも継続して体験できるように工夫をする。
- ・地域との繋がりを実感できる活動を模索する。

（最終評価に向けた）取組の改善を検証する各種指標

- ・学校評価保護者アンケート
- ・学校評価生徒アンケート

学校関係者評価

学校関係者による意見・支援策

- ・地域、保護者、PTAが協力し、学校とともに生徒の育成に努めていくこと。
- ・新型コロナウイルス感染防止対策が教育活動に影響を及ぼす中、小規模校の利点を活かして、工夫を凝らして文化祭、体育祭といった学校行事を開催し、上級生が下級生の良い手本となり、学校全体に温かい雰囲気が作られていることは評価できる。今後も小規模校の利点を活かして、豊かな心の育成に努めていくこと。
- ・「地域の伝統文化を積極的に活用すること」の項目で、学年が進むにつれて、地域の伝統文化に触れ、地域に愛着を感じていることは、継続した取組の成果と評価できる。烏丸中学校では、他校では味わえない多くの伝統文化学習体験を行っているので、今後も、本校の特徴である伝統文化と地域との繋がりを更に生徒の意識に深めていけるようにしていくこと。
- ・心の目標として「五つの心（素直な心、感謝の心、反省の心、互譲の心、奉仕の心）」、生活目標として「JAS（時間、あいさつ、掃除）」を合い言葉として取り組み、生徒の作文を学校だよりを通して紹介し、烏丸中学校の教育として広く保護者に浸透していることは成果である。

最終評価

<p>中間評価時に設定した各種指標結果</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学校評価保護者アンケート ・学校評価生徒アンケート 	
<p>自己評価</p>	<p>分析（成果と課題）、重点目標の達成状況、次年度の課題</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学校評価生徒アンケート（各項目の実現度：7ポイントが最大値，3.5ポイントが中間，1ポイントが最小値）において、「自分の事を大切な人間だと思ふこと」の項目は，1年生5.2ポイント・実現度74%，2年生4.8ポイント・実現度69%，3年生5.3ポイント・実現度76%と比較的高い数値である。1年生は，実現度が前期の71%から74%に，2年生は，実現度が前期の64%から69%に上昇した。 ・学校評価生徒アンケートにおいて，「自分に自信をもつこと」の項目は，1年生5.3ポイント・実現度76%，2年生が4.3ポイント・実現度61%，3年生が4.9ポイント・実現度70%とやや低い数値であるが，1.2年生は，前期より数値は上昇した。 ・学校評価保護者アンケート（各項目の実現度：7ポイントが最大値，3.5ポイントが中間，1ポイントが最小値）において，「目指す子ども像『自信が持てる』について」の項目は，1年生4.6ポイント・実現度66%，2年生5.1ポイント・実現度73%，3年生5.8ポイント・実現度83%と，2.3年生は，生徒評価と比較し，保護者評価の方が高い数値であった。 ・学校評価生徒アンケートにおいて，「地域の伝統文化を積極的に活用すること」の項目は，1年生4.0ポイント・実現度57%，2年生4.5ポイント・実現度64%，3年生5.5ポイント・実現度79%と，本年度は伝統文化教育が実施できていないため，特に，新型コロナの影響で中学校での学習活動ができなかった1年生の数値が低かった。 ・学校評価保護者アンケートにおいて，「地域の伝統的・文化的な環境を活用すること」の項目は，1年生4.6ポイント・実現度66%，2年生5.2ポイント・実現度74%，3年生5.5ポイント・実現度79%と，前期と大きく変わらない数値であった。例年は，後期に，多くの伝統文化教育の体験的活動が実施できるので，数値が上昇する傾向であるが，今年度は，体験的活動が実施できず，後期の数値も低くなった。 ・前期は，臨時休校の影響で，五つの心（素直・感謝・反省・互譲・奉仕）を生徒の活動の中で体験したり，話し合ったりする機会が少なかったが，後期は授業の中や学校での取組，学校行事を経て，五つの心（素直・感謝・反省・互譲・奉仕）が心の目標として生徒たちにも浸透してきた。来年度も烏丸中学校の合言葉，伝統として，誇りを持てるようにしていきたい。 ・生徒会活動や教科授業などを通じて，「自分の考えを発表する」ことや，「自分以外の人意見をしっかり聞き，自分の考えをまとめる」ことで，人との繋がりを大切に，自他ともに大切に育ってきた。 ・本年度実施できなかった伝統文化学習を通して，地域の方に指導を受ける中で，地域の文化や環境を誇りと捉え，地域を愛する心を育てていきたい。次年度は，伝統文化学習に力を注ぎ，地域とのつながり，伝統文化とのつながりを強化していきたい。
<p>分析を踏まえた取組の改善</p>	
<ul style="list-style-type: none"> ・生徒の自主性や積極性を育てるため，生徒会を中心とした「あいさつ運動」の活性化と生徒が企画・運営する生徒会行事の増加。 ・生徒会活動や各種委員会活動において，心の目標として「五つの心（素直な心，感謝の心，反省の心，互譲の心，奉仕の心）」，生活目標として「JAS（時間，あいさつ，掃除）」を啓発する 	

	<p>活動を企画。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・PTA（保護者）とのあいさつ運動の連携強化。 ・文化祭や体育祭での取組等、「人との繋がりによる心の温かさ・豊かさ」を感じることでできる教育活動の継続。 ・文化祭の取組を活用し、PTAの伝統文化学習への参加や参観を企画。 ・地域行事への積極的な参加や地域への貢献活動。
学校関係者評価	<p>学校関係者による意見・支援策</p> <ul style="list-style-type: none"> ・新型コロナウイルス感染拡大防止のため、対面形式での学校関係者評価会議はできなかったが、書面開催の連絡をする中や、地域で顔を合わせる場面で、本校の学習の取り組みや行事の様子を伝えると、地域、保護者、PTAが協力し、学校とともに生徒の育成に努めていくことが重要であるのご意見を頂いた。 ・新型コロナウイルスの影響で、教育活動自体が困難な中、様々な工夫や配慮を重ね、生徒会活動や文化祭、体育祭といった学校行事を通し、学校全体に温かい雰囲気を作られている。小規模校の利点を活かして、今後も豊かな心の育成に努め、来年度は、本校の特徴である伝統文化に取り組み、地域との繋がりを大切にして欲しいとのご意見を頂いた。

(3)「健やかな体」の育成に向けて

<p>重点目標</p> <p>健康を保持増進し、安全な生活を自主的に送ろうとする意識を高める。</p>
<p>具体的な取組</p> <ul style="list-style-type: none"> ・健康観察、生活習慣アンケートを実施し、健康の保持増進の意識を高める。 ・薬物・非行防止教室を実施し、自己の健康のために、責任ある行動をとる重要性を理解させる。 ・避難訓練等を通じて防災・安全に対する意識を高める。 ・性に関する指導を実施し、自他ともに大切にできる態度を養う。 ・食教育、健康教育（喫煙・アルコール・薬物など）を実施し、食と健康の大切さを理解させる。 ・地域防災の拠点として、<u>地域や小中が連携</u>し、地域の一員としての防災の意識を高める。 ・教育相談の機会を活用し、心の健康の重要性を理解させる。
<p>(取組結果を検証する) 各種指標</p> <ul style="list-style-type: none"> ・生活アンケート ・学校評価保護者アンケート ・学校評価生徒アンケート ・各種教室（スマホケータイ、薬物乱用防止、非行防止）後の生徒感想アンケート ・教育相談

中間評価

<p>各種指標結果</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学校評価生徒アンケート（各項目の実現度：7ポイントが最大値、3.5ポイントが中間、1ポイントが最小値）において、「悩みを相談できる場が学校にあること」の項目で、1年生4.5ポイント・実現度64%、2年生5.3ポイント・実現度76%、3年生5.3ポイント・実現度76%と2.3年生では、7割を越える実現度であった。 ・学校評価保護者アンケート（各項目の実現度：7ポイントが最大値、3.5ポイントが中間、1ポイントが最小値）において、「学校行事への参加が盛んであること」の項目で、1年生4.5ポイント・実現度64%、2年生5.3ポイント・実現度76%、3年生5.3ポイント・実現度76%と2.3年生では、7割を越える実現度であった。

トが最小値)において、「子どもが悩みを相談できる場があること(カウンセラーなど)」の項目で、1年生5ポイント・実現度71%、2年生5.3ポイント・実現度76%、3年生5.9ポイント・実現度84%という比較的高い数値であった。特に3年生の保護者の数値が高かった。

- ・学校評価生徒アンケートにおいて、「部活動が盛んであること」の項目で、1年生5.5ポイント・実現度79%、2年生5ポイント・実現度71%、3年生5.2ポイント・実現度74%と比較的高い数値であった。
- ・学校評価保護者アンケートにおいて、「部活動が盛んであること」の項目で、1年生3.9ポイント・実現度56%、2年生4.6ポイント・実現度66%、3年生4.5ポイント・実現度64%と1年生の保護者の実現度がやや低い数値であった。
- ・学校評価保護者アンケートにおいて、「目指す子ども像『挨拶ができる』について」の項目で、1年生5.1ポイント・実現度73%、2年生4.9ポイント・実現度70%、3年生5.9ポイント・実現度84%と、小中連携で取り組む挨拶について、保護者評価は比較的高い数値であった。

自己評価

分析(成果と課題)

- ・「悩みを相談できる場が学校にあること」の項目で、2.3年生では7割を越える生徒が実感できていることは成果である。今後、学校生活を通じて、特に1年生との人間関係を構築し、小規模校の特性を生かして、学年の枠を越えて、一人一人の生徒を学校の教職員全員で育てるという体制を構築していく。
- ・「部活動が盛んであること」の項目では、活動ができない期間が長期となっていたが、保護者は、比較的高い数値になっている。部活動再開後、生徒たちから、部活動での充実した話を聞くことが増えることで、健やかに活動ができていること、たくましく育っていることが実感できている。
- ・「目指す子ども像『挨拶ができる』について」の項目で、保護者評価が比較的高い数値であった。小中連携で、朝の挨拶運動をしてきた成果が学校評価の数値に出てきている。
- ・生活面での大きな乱れは見られないが、インターネット環境が身近になるにつれ、全体的に睡眠時間が短いといった現状がある。
- ・健康教育のさらなる充実が必要である。

分析を踏まえた取組の改善

- ・学年の枠にとらわれず、今後も全ての生徒に全ての教職員で関わり、「きめ細やかな気づき」を大切にするスタイルを貫くことが重要である。そのためには、生徒の様子をしっかりと観察し、情報共有を行う。
- ・「挨拶ができる」と実感される保護者の方が増えている現状であるからこそ、生徒たちが「心通う挨拶」ができるように、更に、小中が連携した挨拶運動の取り組みを進めていく。
- ・睡眠時間の確保のため、基本的な生活習慣の定着に向けて、家庭との連携や協力を強めていく。
- ・健康教育の充実に向け、学校・家庭・地域が連携し、子供たちの健全育成に関する取組を推進していく。

(最終評価に向けた)取組の改善を検証する各種指標

- ・学校評価保護者アンケート
- ・学校評価生徒アンケート
- ・生活アンケート

学校関係者評価	<p>学校関係者による意見・支援策</p>
	<ul style="list-style-type: none"> ・「悩みを相談できる場が学校にあること」ということでは、保護者の些細な疑問や相談事に関しては、PTAの親同士の繋がりでも、前向きに解決できるようにしていく。 ・「挨拶ができる」と実感される保護者が増えていることは、小中が連携して、朝の挨拶運動をしてきた成果である。 ・小規模校の強みを生かして、思春期の生徒をよく見ていると思う。今後も、子どもたちとの温かい人間関係作りを継続して行い、子どもたちの繊細な変化を見逃さずに指導をして欲しい。

最終評価

自己評価	<p>中間評価時に設定した各種指標結果</p>
	<ul style="list-style-type: none"> ・学校評価保護者アンケート ・学校評価生徒アンケート ・生活アンケート ・各種教室後のアンケート
自己評価	<p>分析（成果と課題）、重点目標の達成状況、次年度の課題</p>
	<ul style="list-style-type: none"> ・学校評価生徒アンケート（各項目の実現度：7ポイントが最大値、3.5ポイントが中間、1ポイントが最小値）において、「悩みを相談できる場が学校にあること」の項目で、1年生4.9ポイント・実現度70%、2年生5.3ポイント・実現度76%、3年生5.2ポイント・実現度74%と比較的高い数値であった。1年生は前期64%から後期70%に上昇し、全学年70%を超える実現度となった。引き続き、生徒と生徒、生徒と教師の温かい人間関係づくりの取組が必要である。 ・学校評価保護者アンケート（各項目の実現度：7ポイントが最大値、3.5ポイントが中間、1ポイントが最小値）において、「子どもが悩みを相談できる場があること（カウンセラーなど）」の項目で、1年生4.9ポイント・実現度70%、2年生5.7ポイント・実現度81%、3年生6.5ポイント・実現度93%と、学年が上がるにつれて、実現度が高くなっている。今後も、保護者の方と連携し、生徒の悩みに早期に気付くことが必要である。 ・学校評価生徒アンケートにおいて、「部活動が盛んであること」の項目で、1年生5.8ポイント・実現度83%、2年生5.3ポイント・実現度76%、3年生5.5ポイント・実現度79%と前期と比べて高い数値であった。前期は、新型コロナの影響で部活動が出来なかった時期が長くあったが、生徒が部活動の再開を待ち望んでいた気持ちが、今回の数値へ表れていると分析できる。 ・学校評価保護者アンケートにおいて、「部活動が盛んであること」の項目で、1年生4.0ポイント・実現度57%、2年生4.4ポイント・実現度63%、3年生4.8ポイント・実現度69%と、生徒に比べて、低い数値であった。 ・学校評価保護者アンケートにおいて、「目指す子ども像『挨拶ができる』について」の項目で、1年生4.8ポイント・実現度69%、2年生5.3ポイント・実現度76%、3年生5.8ポイント・実現度83%と、学年が上がるにつれて、保護者評価は比較的高い数値であった。小中連携で取り組む挨拶については、今年度は、新型コロナの影響で、PTAとの共催ができなかったが、3年間を通して、小中合同で挨拶運動に取り組んできた成果が表れている。次年度は、是非ともPTAとの共催、小中連携での挨拶運動に取り組みたい。
<p>分析を踏まえた取組の改善</p>	
<ul style="list-style-type: none"> ・学年の枠にとらわれず、来年度も全ての生徒に、全ての教職員で関わっていくスタイルを貫く 	

	<p>ことが重要である。そのためには、授業はもとより、学校行事及び日常生活での関わりの場面で、生徒の様子をしっかりと観察し、生徒の内面を理解するための情報共有を行う。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「挨拶ができる」と回答いただいた保護者の方が、学年が進むにつれて増えている状況であるからこそ、生徒たちが、気持ちよく学校生活をスタートさせる挨拶、温かい人間関係づくりに繋がる「心通う挨拶」ができるように、更に、PTAと連携した挨拶運動、小中連携した挨拶運動を進めていく。 ・睡眠時間の確保のため、基本的な生活習慣の定着に向けて、家庭との連携や協力を強めていく。 ・今年度は、新型コロナの影響で、地生連やPTA 校外補導委員会と共催する家庭教育講座を実施することができなかったが、来年度は、健康教育の充実に向け、学校・家庭・地域が連携し、子供たちの健全育成に関する取組を推進していく。
学校関係者評価	<p>学校関係者による意見・支援策</p> <ul style="list-style-type: none"> ・新型コロナウイルス感染拡大防止のため、対面形式での学校関係者評価会議はできなかったが、書面開催の連絡をする中や、地域で顔を合わせる場面で、本校の学習の取り組みや行事の様子を伝えると、地域、保護者、PTAが協力し、学校とともに生徒の育成に努めていくことが重要であるのご意見を頂いた。 ・新型コロナウイルスの影響で、教育活動自体が困難な中、様々な工夫や配慮を重ね学校全体に温かい雰囲気を作られているので、今後も継続して欲しいとのご意見を頂いた。

(4) 学校独自の取組

重点目標	伝統文化教育の充実及び少人数を活かした教育の実践
具体的な取組	<ul style="list-style-type: none"> ・各種伝統文化体験を実施し、地域の伝統文化を重んじ、地域を愛する心を育てる。 (和菓子作り体験、京象嵌作り体験、茶道作法体験、和装着付け体験、陶芸教室、琵琶引き語り体験、屏風絵鑑賞体験、百人一首大会など) ・体育祭などの縦割り集団を活用し、異年齢との関わりの中で、感性豊かな心を育む。 ・少人数クラスを編成(3年生による三分割授業)し、個の課題に応じた学習支援を行い、学力の伸長を図る。(社会・数学・英語)
(取組結果を検証する) 各種指標	<ul style="list-style-type: none"> ・学校評価保護者アンケート ・学校評価生徒アンケート ・伝統文化体験後のアンケート

中間評価

各種指標結果	<ul style="list-style-type: none"> ・学校評価生徒アンケートにおいて、「地域の伝統文化を積極的に活用すること」の項目は、1年生 3.8 ポイント・実現度 54%、2年生 4.9 ポイント・実現度 70%、3年生 5.4 ポイント・実現度 77%と、伝統文化の取り組みを重ねて、学年が上がるに比例し実現度が上昇している。 ・学校評価保護者アンケートにおいて、「地域の伝統的・文化的な環境を活用すること」の項目は、1年生 4.5 ポイント・実現度 64%、2年生 5.3 ポイント・実現度 76%、3年生 5.6 ポイント・実現度 80%と、伝統文化の取り組みを重ねて、学年が上がるに比例し実現度が上昇している。
---------------	---

- ・学校評価生徒アンケートにおいて、「烏丸中学校は人数が少ない学校ですが、その良さを活かした取り組みをすること」の項目は、1年生 4.8ポイント・実現度 69%、2年生 5.3ポイント・実現度 76%、3年生 5.7ポイント・実現度 81%と、学年が上がるにつれて高い数値になっている。
- ・学校評価保護者アンケートにおいて、「小規模校の利点を最大限に生かした取り組みを行うこと」の項目は、1年生 4.8ポイント・実現度 69%、2年生 5.1ポイント・実現度 73%、3年生 5.5ポイント・実現度 71%と、学年が上がるにつれて高い数値になっている。

自己評価

分析（成果と課題）

- ・学校評価生徒アンケートにおいて、「地域の伝統文化を積極的に活用すること」の結果として、学年が進むにつれて、地域の伝統文化に触れ、地域に愛着を感じていることが窺える。本年度は、新型コロナの感染対策で実施できていないが、本校の特徴である伝統文化と地域との繋がりを更に生徒の意識に深めていけるよう取り組みを続けていく。
- ・地域の特性を活かした伝統文化教育は本校の特色である。今後も伝統文化教育に関わる取組は継続していく必要がある。しかし、行事による授業時間確保が困難な場合に備え、行事の精選も課題となってくる。
- ・体育祭の縦割りの取り組みなど、学年の垣根を越えて、生徒同士が温かい交流を深めている。烏丸中学校独自の温かい校風を継続できるように、今後も努力を続けていく。
- ・「烏丸中学校は人数が少ない学校ですが、その良さを活かした取り組みをすること」の項目では、生徒アンケート、保護者アンケートともに、学年が上がるにつれて高い数値が出ている。全校での取組や学校行事において、学校全体の一体感を味わうことにより、本校の良さを感ずることができた成果である。また、少人数クラスの編成で授業をする（3年生による三分割授業）数学、理科、英語での取り組みも、少人数の良さを活かした取り組みを実感できている要因である。

分析を踏まえた取組の改善

- ・「地域の伝統文化を積極的に活用すること」について、生徒や保護者向けに、学校での様々な取組や行事を、ホームページや学校だよりを通して紹介し、伝統文化に触れ、伝統あるこの地域に愛着を深めていけるようにする。

（最終評価に向けた）取組の改善を検証する各種指標

- ・学校評価保護者アンケート
- ・学校評価生徒アンケート
- ・行事の様子及び行事後のアンケート

学校関係者評価

学校関係者による意見・支援策

- ・新型コロナウイルス感染防止対策が教育活動に影響を及ぼす中、小規模校の利点を活かして、工夫を凝らして文化祭、体育祭といった学校行事を開催し、上級生が下級生の良い手本となり、学校全体に温かい雰囲気が作られていることは評価できる。今後も小規模校の利点を活かして、豊かな心の育成に努めていくこと。
- ・「地域の伝統文化を積極的に活用すること」の項目で、学年が進むにつれて、地域の伝統文化に触れ、地域に愛着を感じていることは、継続した取組の成果と評価できる。烏丸中学校では、他校では味わえない多くの伝統文化学習体験を行っているので、今後も、本校の特徴である伝統文化と地域との繋がりを更に生徒の意識に深めていけるようにしていくこと。
- ・小規模校の利点を生かした取り組みを、烏丸中学校の強みと捉えて更に充実させていくこと。

最終評価

	<p>中間評価時に設定した各種指標結果</p> <ul style="list-style-type: none">・学校評価保護者アンケート・学校評価生徒アンケート・各種伝統文化体験のアンケートや取り組みの様子
自己評価	<p>分析（成果と課題）、重点目標の達成状況、次年度の課題</p> <ul style="list-style-type: none">・学校評価生徒アンケートにおいて、「地域の伝統文化を積極的に活用すること」の項目は、1年生 4.0 ポイント・実現度 57%，2年生 4.5 ポイント・実現度 64%，3年生 5.5 ポイント・実現度 79%と、本年度は伝統文化教育が実施できていないため、特に、新型コロナの影響で中学校での学習活動ができなかった1年生の数値が低かった。・学校評価保護者アンケートにおいて、「地域の伝統的・文化的な環境を活用すること」の項目は、1年生 4.6 ポイント・実現度 66%，2年生 5.2 ポイント・実現度 74%，3年生 5.5 ポイント・実現度 79%と、前期と大きく変わらない数値であった。例年は、後期に、多くの伝統文化教育の体験的活動が実施できるので、数値が上昇する傾向であるが、今年度は、体験的活動が実施できず、後期の数値も低くなった。・今年度は新型コロナの影響で実施できなかったが、毎年、伝統文化学習を通して、地域の方に指導を受ける中で、地域の文化や環境を誇りと捉え、地域を愛する心を育ててきている。次年度は、是非とも、伝統文化学習に力を注ぎ、地域とのつながり、伝統文化とのつながりを強化していきたい。・学校評価生徒アンケートにおいて、「烏丸中学校は人数が少ない学校ですが、その良さを活かした取り組みをすること」の項目は、1年生 5.7 ポイント・実現度 81%，2年生 5.6 ポイント・実現度 80%，3年生 5.5 ポイント・実現度 79%と、高い数値になっている。・学校評価保護者アンケートにおいて、「小規模校の利点を最大限に生かした取り組み行うこと」の項目は、1年生 5.3 ポイント・実現度 76%，2年生 5.7 ポイント・実現度 81%，3年生 6.0 ポイント・実現度 86%と、高い数値である。学年が上がるにつれて数値が高くなっているのは、学校行事や学年の取組を重ねて、小規模校の取組を理解して頂けてきていると表れだと考えられる。・1年間の授業や学校での取組、学校行事を経て、五つの心（素直・感謝・反省・互譲・奉仕）が心の目標として生徒たちに、しっかりと浸透してきた。引き続き、来年度も烏丸中学校の合言葉、伝統として、生徒が誇りを持てるようにしていきたい。 <p>分析を踏まえた取組の改善</p> <ul style="list-style-type: none">・今年度は、新型コロナの影響で伝統文化学習ができなかったが、「地域の伝統文化を積極的に活用すること」について、次年度は、生徒や保護者に向けて、学校での伝統文化学習の様々な取組や行事を、ホームページや学校だよりを通して紹介し、伝統文化に親しみ、伝統あるこの地域に愛着を深めていけるようにする。
学校関係者評価	<p>学校関係者による意見・支援策</p> <ul style="list-style-type: none">・新型コロナウイルス感染拡大防止のため、対面形式での学校関係者評価会議はできなかったが、書面開催の連絡をする中や、地域で顔を合わせる場面で、本校の学習の取り組みや行事の様子を伝えると、地域、保護者、PTAが協力し、学校とともに生徒の育成に努めていくことが重要であるのご意見を頂いた。

- ・生徒会活動や文化祭、体育祭といった学校行事を通し、学校全体に温かい雰囲気を作られている。小規模校の利点を活かして、今後も豊かな心の育成に努めていくことと、引き続き、本校の特徴である伝統文化と地域との繋がりを生徒の意識に深めていき、中学生が地域行事に参加できるようにすることとのご意見を頂いた。

(5) 業務改善・教職員の働き方改革について

重点目標

- ・教職員一人一人が勤務時間を意識し、会議及び校務の効率化を図り、自らの働き方に関する意識改革を進める。

具体的な取組

- ・学校行事の精選、会議の効率化を図る。
- ・校務分掌の役割分担を行い、適材適所へ人員を配置し、過度な業務負担を軽減する。
- ・センターサーバへデータを集約し校務の効率化を図る。

(取組結果を検証する) 各種指標

- ・出退勤管理システムの記録
- ・管理職による個別面談（勤務全般に関する面談を含む）

中間評価

各種指標結果

- ・出退勤管理システムの記録では、今年度、時間外勤務が 80 時間を越える教職員はいない。
- ・管理職による個別面談及び勤務の様子から見て、教職員一人一人が勤務時間を意識し、会議及び校務の効率化を図るようになってきている。

自己評価

分析（成果と課題）

- ・時間外勤務が 80 時間を越える教職員がいないことは成果である。
- ・教職員一人一人が勤務時間を意識し、計画的に業務を進めていることは成果である。
- ・時間外勤務が 80 時間を越える教職員は現在いない。しかし、多くの教職員が 45 時間を超える時間外勤務となっている。今後、働き方改革を進める上で課題といえる。

分析を踏まえた取組の改善

- ・会議の効率化、分掌での仕事の役割分担を進め、適材適所で力が発揮できるようにして、時間外勤務の削減を進めていく。
- ・会議資料や分掌での資料は、センターサーバに共有し、はじめから資料を作成する手間を省けるように、データ管理をする。

(最終評価に向けた) 取組の改善を検証する各種指標

- ・出退勤管理システムの記録
- ・管理職による個別面談及び勤務の様子

学校関係者評価

学校関係者による意見・支援策

- ・丁寧に対応し、しっかりと生徒を見て指導しているのは評価できる。社会的に教職員の超過勤務が問題となっているので、過度な負担にならないように働き方改革も進めていくこと。

最終評価

<p>中間評価時に設定した各種指標結果</p> <ul style="list-style-type: none">・ 出退勤管理システムの記録・ 管理職による個別面談及び勤務の様子	
自己評価	<p>分析（成果と課題）、重点目標の達成状況、次年度の課題</p> <ul style="list-style-type: none">・ 出退勤管理システムの記録では、本年度、時間外勤務が 80 時間を越える教職員はいない。・ 管理職による個別面談及び勤務の様子から見て、教職員一人一人が勤務時間を意識し、会議及び校務の効率化を図るようになってきている。・ 教職員一人一人が勤務時間を意識し、計画的に業務を進めていることは成果である。
	<p>分析を踏まえた取組の改善</p> <ul style="list-style-type: none">・ 会議の効率化、分掌での仕事の役割分担を進め、適材適所で力が発揮できるようにして、時間外勤務の削減を進めていく。・ 会議資料や分掌での資料は、センターサーバに共有し、はじめから資料を作成する手間を省けるように、データ管理をする。
学校関係者評価	<p>学校関係者による意見・支援策</p> <ul style="list-style-type: none">・ 新型コロナウイルス感染拡大防止のため、対面形式での学校関係者評価会議はできなかったが、書面開催の連絡をする中や、地域で顔を合わせる場面で、本校の学習の取り組みや行事の様子を伝えると、教職員が丁寧に対応し、しっかりと生徒に寄り添った指導しているのは評価できるので、超過勤務は現代社会で解決すべき課題となっているので、教育活動が教職員の過度な負担にならないように、働き方改革も進めてくださいとご助言をいただいた。